2026年（令和8年）11月6日（金曜日）　日刊（土曜、日曜、祝日休刊）　建設新聞

和合館工学舎

経験と教訓を次世代へ

東北フォーラムを開催

和合館工学舎（小野貴史代表理事）は4日、仙台市のフォレスト仙台で「第10回和合館東北フォーラム2026」を開催した。当日は対面とオンラインそれぞれ30人ほどが参加。「伝承経験と教訓を、次の世代へ」をテーマに、過去の経験を未来につなぐ「伝承」について考えを深めた。

当日は仙台建設業協会の深松努会長（深松組代表取締役社長）と、みやぎ産業振興機構および宮城県スポーツ協会の遠藤伸哉理事長が講師として招かれた。冒頭、深松会長の黄綬褒章と遠藤理事長の瑞宝中綬章の受章を祝い、事務局から花束の贈呈があった。

冒頭のあいさつに立った小野代表理事は「東日本大震災を契機に、インフラの整備の重要性がより認識され、まさに転換期だったと感じる。東北は国内のみならず海外においても先進的な取り組みをしていくべきで、そのために和合館の『人づくり』の取り組みが果たす役割も大きい」と意義を強調した。

深松会長は「私の建設経営人生の話」と題して講演。幼少期に命の危機を乗り越えた経験や、建設現場での修業を通じて、命の尊さやリーダーとしての覚悟など多くの教訓を得たことを紹介した。東日本大震災後は、国内外から受けた支援への恩返しを「感謝報恩」と掲げ講演や寄付活動を続けてきたことを踏まえ、次世代に引き継ぐために技術者や地域の担い手に経験を伝え、災害に強い地域づくりにつなげる重要性を強調。また人口減少で担い手が減る地方のインフラや暮らしを守るには、災害時の相互支援や人材育成など、官民一体となった取り組みが不可欠だと訴えた。

遠藤理事長は「東日本大震災と過去の災害から学ぶ教訓と伝承」をテーマに講


深松会長


遠藤理事長